【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】令和4年5月24日(2022.5.24)

【国際公開番号】WO2021/240794
【出願番号】特願2021-500761(P2021-500761)
【国際特許分類】
Ｅ０５Ｃ　9/18(2006.01)
【ＦＩ】
Ｅ０５Ｃ　9/18

【手続補正書】
【提出日】令和2年12月9日(2020.12.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
筐体及び前記筐体の筐体開口部を開閉する扉のいずれか一方に設けられる凸部と、
前記筐体及び前記扉のいずれか他方に回転軸線回りに回転可能に設けられ、前記凸部と係合可能、かつ自重により前記凸部との係合が常時解除されているフックと、
前記フックとは別に設けられ、前記フックを押圧する押圧部と、
を備え、
前記フックは、
前記回転軸線を挟んで前記凸部と係合されるフック側係合部と、
前記押圧部によって押圧されることにより、前記凸部と前記フック側係合部とを係合させるフック側押圧部と、
を有し、
前記フック側係合部は、
前記係合部との係合後に前記凸部の突出方向への抜けを規制する第１規制部と、
前記係合部との係合後に前記凸部の前記突出方向と交差する方向への抜けを規制する第２規制部と、
を有する
ロック機構。
【請求項２】
前記扉は、前記筐体と係合可能なハンドルを有し、
前記ハンドルの前記筐体への係合動作と連動して前記押圧部が前記フック側押圧部を押圧する
請求項１に記載のロック機構。
【請求項３】
（削除）
【請求項４】
前記係合部は、前記扉の開閉方向に沿って突出する段付き円柱状の凸部であり、
前記凸部は、
第１軸部と、
前記第１軸部の前記突出方向側の端部に設けられ、前記第１軸部よりも拡径された第２軸部と、
前記第２軸部の前記突出方向側の端部に設けられ、前記第２軸部よりも拡径された第３軸

部と、
を有し、
前記フック側係合部は、各前記軸部の軸方向と交差する方向に沿って移動可能に設けられており、
前記フック側係合部は、
前記第１軸部のみ通過可能な第１開口部と、
前記第１開口部に連通され、前記第１軸部及び前記第２軸部のみ通過可能な第２開口部と、
を有する
請求項１又は請求項２に記載のロック機構。
【請求項５】
前記係合部は、前記扉の開閉方向と交差する方向に沿って突出する段付き円柱状の凸部であり、
前記凸部は、
第４軸部と、
前記第４軸部の前記突出方向側の端部に設けられ、前記第４軸部よりも拡径された第５軸部と、
を有し、
前記フック側係合部は、各前記軸部の軸方向に沿って移動可能に設けられており、
前記フック側係合部は、
前記第４軸部のみ通過可能な第３開口部と、
前記第３開口部に連通され、前記第４軸部及び前記第５軸部を通過可能な第４開口部と、
を有する
請求項１又は請求項２に記載のロック機構。
【請求項６】
前記筐体に前記係合部が設けられており、
前記扉に前記フックが設けられている
請求項１、請求項２、請求項４、請求項５のいずれか一項に記載のロック機構。
【請求項７】
前記押圧部は、棒体であり、前記棒体の軸方向に沿ってスライド移動する
請求項１、請求項２、請求項４から請求項６のいずれか一項に記載のロック機構。
【請求項８】
前記係合部と前記フック側係合部とが係合された状態において、前記押圧部及び前記フック側押圧部の少なくともいずれか一方は、前記筐体開口部の周縁と係合されている
請求項１、請求項２、請求項４から請求項７のいずれか一項に記載のロック機構。